

豊田市立浄水中学校	
派遣日時	令和6年1月23日(木) 13時15分～14時00分
対象者	中学2年生(245名)・教職員(12名)
外部講師	愛知県がんセンター 医師 下山 理史
設定場面	保健集会
テーマ	「がん」という病気について考えよう
ねらい	・がんという病気のおこり方についての基礎知識を理解する。 ・がんは、早期発見と望ましい生活習慣が大切なことや、成長期により生活習慣を身に付けておくことが、生涯の自分の健康につながることを理解する。
実施内容	【事前の準備・打ち合わせ等】 ・11月、「がん」に関するアンケート調査(意識、知識)を実施する。 ・12月、アンケート結果と保健委員の発表用パワーポイント、「がん教育外部講師事前打ち合わせシート」を送付し、内容について講師と相談する。 【当日の概要】 ・最初に、がんに関するアンケート結果を、昨年度の2年生と、愛知県の平均値と比較しながら、考察を発表した。「病気とはどんなもの?」「がんのイメージは?」「予防するためには?」など講師から教えるのではなく、生徒から意見を聞きだしながら、がんについて考えることができた。病気になったらどうしたらよいのか(本人や周囲の人)、どんなことが大切なのか(声を聴くこと、支えること、つなげること)を学んだ。
成果・感想	【成果】事前・事後のアンケートより ・がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。(そう思う)71%➡94% ・がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。(そう思う)75%➡86.6% ・がんと健康についてまず身近な家族から語ろうと思う。(そう思う)53%➡72.8% ・長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。(そう思う)79%➡90.2% 【今後の取組の予定】 HPやほけんだより、学年だよりで、がん教育の様子をお知らせした。2年生では、保健の授業で生活習慣病について再度学習し、3年生の思春期教室などの、性教育・いのちの授業につなげていきたい。 【生徒感想より】 今回の集会を通して、がんの予防法についていくつか学びました。まず、普段の生活で、よく食べ、よく寝、よく体を動かし、健康の保持増進に努めることです。次に、定期的に健診を受けることで、がんを早期に発見し、治療することで、完治の可能性を上げることです。 先生の話で、特に印象に残ったことは、病気との向き合い方です。がんだけではなく、どんな病気でも周りの協力が大事であるということを学びました。病気になると、自分のつらさはなかなか周りには伝わらない、だからこそ、寄り添い、話し、支えることで患者の痛みを和らげることにつながるという言葉がとても心に残っています。今回学んだことを生かし、身近な人が病気になった時に、支えてあげたいです。

瀬戸市立にじの丘中学校	
派遣日時	令和6年9月13日(金) 13時30分～15時20分
対象者	中学2年生(90名)・教職員(10名)・保護者(3名)
外部講師	公立陶生病院 医師 澤田 憲朗
設定場面	学校保健委員会 講演会
テーマ	演題「知っておこう がんのこと 一大切な命を守るために」
ねらい	・がんについて正しく理解するとともに、自分の行動(生活習慣・将来検診を受けるなど)について考える ・がん患者に対しての望ましい行動について考える機会とする
実施内容	【事前の準備・打ち合わせ等】 ＜校内での準備＞ ・講演内容について、対象学年(2年生)教員と相談ののち、職員会議にて提案 ・配慮が必要な生徒の把握 ・保護者への案内状配付 ・事前、事後アンケートの準備および講演後に配付する資料の印刷 ＜講師との打ち合わせ＞ ・生徒の実態や配慮が必要な生徒情報を提供し、講演内容について打ち合わせ ・講演時使用するスライドおよび講演後に配付する資料についての確認 【当日の概要】 ○ 講演 ・「がん」についての知識→がん細胞ができるまで、がんができる原因、がんの進行、がんにならない生活習慣、がん検診(早期発見)、がんの治療法など ・クイズ→①がん細胞は1日にどれくらいできるのか ②がんの治療率に関すること ③双子の写真を比較:喫煙に関すること ・考えてみよう→自分の身近な人ががんになったら、どんな言葉をかけるか ・まとめ→①学んだことを振り返りましょう ②学んだことを毎日の生活で実行しましょう ③学んだことをみんなの大切な人に伝えましょう ○意見交換 身近な人ががんになったら、どんな言葉をかけてあげたらよいでしょうか ※生徒の発言「私にできることは何でも言ってね。手伝うよ」 ○学びのふりかえり ・近くの生徒同士で、印象に残った学びを共有 ・講師から「がん患者は、孤立感、孤独感を感じている。大それた言葉がけでなくても、隣りに寄り添うことでもいいと思う」と、体験談を交えた補足 ○講演会のふりかえり ・講師、校長、養護教諭で講演内容のふりかえり
	【成果】 1 アンケート結果から ・「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」:そう思う 55.6%→81.1% ・「がんの治療法には手術治療しかない」:そう思う 24.4%→8.9% ・「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」:そう思う 47.8%→75.0% ・「がんと健康について、まず身近な家族から語ろうと思う」:そう思う 33.3%→66.7% ・「がんになっても生活の質を高めることができる」:そう思う 16.7%→36.7% ・3)の質問(自分の生活・行動)に対して、「そう思わない」と回答した生徒が減少した。 2 生徒の感想から ・がんについてあまり知る機会がないので、今日、知ることができて良かったです。がんになるしくみやがんの種類などたくさん知ることができました。健康診断をうけられる年齢になったら、定期的に受けに行きたいです。 ・僕は、がんは程遠い存在だと思っていましたが、思ったより身近で、僕の周りの人ががんになっているかもしれないという事実に驚きました。今日のがん教育で、自分のがんへの認識が誤って

成果・感想

いたことがわかり、こういった機会にがんについて知ることができてよかったです。

- ・がんのことを正しく知れてよかったです。2年前に祖父をがんで亡くしていて、自分がそのときに弱っていく祖父を見たくなくて避けていました。声かけはしていました。今でもあのときの行動が正しかったのか分からなくて後悔しています。でも、今日、がん患者への声かけの方法などを学んで、少し後悔が晴れました。これからもまわりの人を大切にしていこうと思います。
- ・講演会を通して、がんは身近な病気であること、早く見つけて治せばよいことなどを知ることができました。がんになりにくくするために、生活に気をつけたり、検査をして早期発見につなげようと思いました。身近な人ががんになったときに、今回の知識をいかして支えていきたいと思います。
- ・私のがんになったら死んでしまうのかなとずっと思っていたけれど、話を聞いて、がんにならないための予防や早期発見、早期治療をすることによって治すことができるということを知り安心しました。私も病気にならないように検診に行きたいです。

● 医師から話を聞いたことにより、がんについての正しい知識や早期発見・早期治療の重要性や予防に対する意識の向上がみられた。がんを身近な問題、自分事としてとらえるようになったと思われる。学んだことを家族に教えたいという感想も多くあり、自分だけでなく家族と一緒に考えたいという姿勢もみられた。

【今後の取組予定】

今後も2年生と保護者を対象に、外部講師によるがん教育に取り組んでいきたい。

「がんは日本人の死因第2位である」ことや「がんの痛みは我慢するしかない」など、誤った認識を是正できなかった生徒がいた。がんの正しい知識の習得には課題が残った。3年生の保健の学習では、がんについての知識理解をさらに深める学習の必要性を感じた。また、講演の最後に意見交流をした「がん患者との共生」に視点をおいた教育活動にも取り組んでいきたい。